

中学校 第2学年 国語科 C読むこと

対象学年	花巻市立花巻北中学校 第2学年 1クラス (27名)
使用ソフト等	授業支援ソフト (ロイロノート・スクール)
端末環境	Windows タブレット (生徒機1人1台・教師機1台)
通信方式	Wi-Fi
概要	<p>本単元では、「君は『最後の晩餐』を知っているか」(評論)と『最後の晩餐』の新しさ(解説)という二つの文章を扱い、それぞれの文章の種類やテーマ、着眼点など、観点に沿って情報を整理した。二つの文章を比較し、共通点や相違点を考えることで、それぞれの文章の特徴を捉えられるようにした。また、文章の構成や表現が文章全体に与える効果や、文章を比較することの効果について考え、自分の考えを文章にまとめた。</p> <p>ICTについては、「最後の晩餐」の図版や教科書本文の拡大提示、授業支援ソフト「ロイロノート・スクール」のシンキングツールを用いての情報の整理、タブレットPCを使ってのお互いの考えの共有、ロイロノートのカードを使用しての振り返りなど、様々な学習場面において活用した。</p>

1 ICTの活用場面

<p>A1 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>C4 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

A 1 教員による教材の提示

単元の導入で学習計画を確認する際や、1単位時間の導入で本時の学習の流れを確認する際に、生徒が学習の見通しをもつことができるように単元の学習計画や本時の学習の流れを提示する。また、学習方法やロイロノートの操作方法など全員で確認したい活動の場合は、大型テレビやスクリーンに方法を提示しながら説明をする。

さらに、図版や教科書本文を提示し、本文と図版がどう結び付いているのかを確認したり、手掛かりとなる言葉を全員で確認したりしながら教科書本文を読み進める。

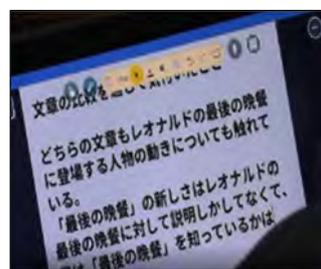


【図1】図版の提示

B 3 思考を深める学習

第2時では、本文の記述を手掛かりにししながら「最後の晩餐」に使われている技法について読み取る。第3時では、シンキングツールを使って、①文章の種類、②テーマ、③着眼点、④文章の構成、⑤表現（述べ方）の特徴の五つの観点から、二つの文章の情報を整理し、比較する。そして、2枚のカードを見ながら二つの文章における共通点と相違点を考え、気付いたことをロイロノートのカードに記述する。

記述する量が多いものについては、ワークシートに考えを記述し、それをタブレットPCのカメラで撮影することで交流できるようにする。



【図2】共通点と相違点

C 1 発表や話し合い

本単元では、ロイロノートの提出箱を活用して、発表を行う。

教師は、生徒が提出したロイロノートのカードを一覧にして見ることができ、それを基に発表する生徒を決めることができ、意図的に指名することが可能になる。

また、生徒は、教師が大型テレビに映したり、回答を共有したりすることによって学級全員のカードを読むことができ、友達がどんな考えなのかを把握することができる。



【図3】意見の発表

C 2 協働での意見整理

今まではワークシートやノートを交換して読んだり、順番に発表したりしながら行っていた意見交流を、ロイロノートの送信機能を使って行う。生徒はワークシートの記述をカメラで撮影し、それをグループの友達を選択して送信する。そして、自分のタブレットPCに送られてきた友達の写真カードに直接自分の意見や感想を書き、それをもう一度友達に戻す、というやり方で意見交流を行う。

タブレットPC用のペンを使うと、サイドラインを引いたりコメントを書いたりすることが容易になり、キーボード入力で作るよりもスムーズに意見を記入することができる。



【図4】友達と考えを共有

2 単元の指導と評価の計画（全体4時間）			
時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○「君は『最後の晚餐』を知っているか」の全文を通読し、筆者の論の展開や大まかな内容をつかみ、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「最後の晚餐」の図版を提示し、描かれている場面や用いられている技法について確認する。 ・筆者が「最後の晚餐」をどう評価しているのか、本文中から見付けられるように助言する。 	
2	○「君は『最後の晚餐』を知っているか」の文章を読み、内容を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「解剖学」「遠近法」「明暗法」について確認し、どこにその技法が使われているのか、「最後の晚餐」の図版と本文とを結び付けながら考えるように指導する。 ・筆者が「最後の晚餐」を「かっこいい」と思った理由について、本文中の言葉を使ってまとめるように指示する。 	<p>[知識・技能]① ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が「最後の晚餐」を「かっこいい」と述べている理由について、例示を基にまとめているかを確認する。
3 本時	<p>○『最後の晚餐』の新しさ」の文章を読み、内容を捉える。</p> <p>○「君は『最後の晚餐』を知っているか」と『最後の晚餐』の新しさ」の文章を比較して、それぞれの文章の特徴を捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者はレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」の何を新しいと考えたのか、レオナルドの「最後の晚餐」の図版と過去に描かれた「最後の晚餐」の図版とを見比べ、本文と結び付けながら考えるように指導する。 ・文章の種類やテーマ、着眼点など、観点に沿って情報を整理することを通してそれぞれの文章の特徴を捉えられるように指導し、二つの文章の共通点や相違点についても考えるように促す。 	<p>[思考・判断・表現]① シンキングツール（ロイロノート）・カード（ロイロノート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの文章に書かれていることを比較したり関係付けたりしながら整理することを通して、それぞれの文章の特徴や、二つの文章の共通点や相違点について捉えているかを確認する。
4	<p>○二つの文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考え、文章にまとめる。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や表現が、文章全体にどのような印象を与えているのか、その効果について考えるように助言する。 ・筆者はなぜこのような文章の構成や書き方にしたのか、筆者の意図や文章が書かれた目的とも併せて考えるように助言する。 ・二つの文章を比較することによって、初めて気付いたことや理解が深まったことについて考えるように促す。 	<p>[思考・判断・表現]② ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点を明確にしながら二つの文章を比較することを通して、文章の構成や表現がもたらす効果について捉えているかを確認する。 <p>[主体的に学習に取り組む態度]① ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や表現の効果など、文章を比較して読む学習を通して考えたことを文章にまとめようとしているかを確認する。

3 代表的な授業（第3時）	
本時の目標	目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。

○指導過程

	学習活動	指導上の留意点 (◇評価 []評価の観点 ■活用するICT機器等)
導入 5分	<p>1 前時の学習内容を振り返る。 (1)「解剖学」「遠近法」「明暗法」 (2) 筆者が「カッコいい」と評価した理由</p> <p>2 学習課題を把握する。 「君は『最後の晩餐』を知っているか」と『最後の晩餐』の新しさの文章を比較し、それぞれの文章の特徴について考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」の図版を提示し、筆者が「絵画の科学」と述べた三つの技法について想起できるようにする。 筆者がなぜ「カッコいい」と評価したのかを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ■ノートPC ■プロジェクター ■スクリーン ■プレゼンテーションソフト 本時は『最後の晩餐』の新しさという文章を読み、「君は『最後の晩餐』を知っているか」の文章と比較することを確認する。
展開 35分	<p>3 学習課題を解決する。 (1)『最後の晩餐』の新しさで述べられているレオナルドの「新しさ」について読む。 ア 食卓を囲む構図 イ 頭部に光輪を描いていない人物 ウ 緻密な描写 (2)「君は『最後の晩餐』を知っているか」と『最後の晩餐』の新しさの文章を観点に沿って整理し、それぞれの文章の特徴を捉える。 ア 文章の種類 イ テーマ ウ 着眼点 エ 文章の構成 オ 表現（述べ方）の特徴 (3)二つの文章を比較し、共通点や相違点を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> レオナルドの「最後の晩餐」の図版と過去に描かれた「最後の晩餐」の図版とを見比べ、教科書の本文と結び付けながら、レオナルドの「最後の晩餐」の何が新しいのかを考えるように助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ■ノートPC ■プロジェクター ■スクリーン ■プレゼンテーションソフト シンキングツールを使い、文章の種類やテーマ、着眼点など、観点に沿って情報を整理するように指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ■タブレットPC ■大型テレビ ■授業支援ソフト（ロイロノート・スクール） 二つの文章を比較して気付いた共通点や相違点をカードにまとめ、友達に送信して共有し、お互いの考えに意見や感想を述べるように促す。 <p>◇[思考・判断・表現]① シンキングツール（ロイロノート）・ カード（ロイロノート） ・二つの文章に書かれていることを比較したり関係付けたりしながら整理することを通して、それぞれの文章の特徴や、二つの文章の共通点や相違点について捉えているかを確認する。</p>
終末 10分	<p>4 本時の学習を振り返る。 《学習の振り返り例》 評論と解説という二つの文章を比べてみて、それぞれの文章の特徴がよく分かりました。文章は違っても、カッコよさや新しさなど、レオナルドの「最後の晩餐」がいかにすばらしいかを述べているところが、共通していると思いました。</p> <p>5 次時の学習について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 二つの文章を比較して何が分かったか、比較する学習を通してどんなことを考えたかを振り返り、ロイロノートのカードに書くように促す。 <ul style="list-style-type: none"> ■タブレットPC ■大型テレビ ■授業支援ソフト（ロイロノート・スクール） 次時は、二つの文章の構成や表現の効果について考えたことを文章にまとめることを伝える。

(4) 授業支援ソフトの操作方法の説明

本単元では、全ての時間に授業支援ソフト「ロイロノート・スクール」を使用した。生徒がロイロノートの中にあるカードやシンキングツールを使用する際に、どのような手順で進めていけばよいのか分かるように、操作方法について提示しながら説明した【図11】。

また、資料箱や提出箱の使い方、グループの友達へのカードの送り方などについても、大型テレビに投影し、操作方法を確認しながら授業を行った。



【図11】ロイロノートの操作方法についての説明

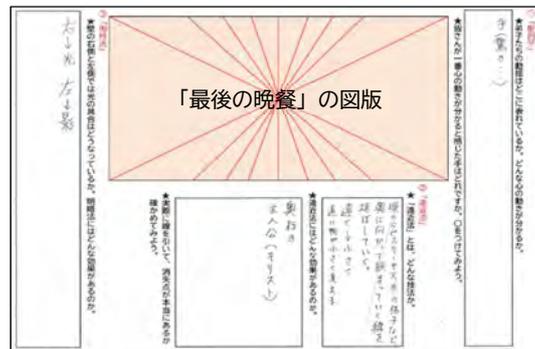
【B 個別学習】 B3 思考を深める学習

(1) 「最後の晩餐」の分析

「君は『最後の晩餐』を知っているか」では、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「最後の晩餐」に「解剖学」「遠近法」「明暗法」という技法が使われていることが述べられている。

第2時では、それらの技法が具体的にどんな技法なのか、本文の記述を手掛かりにしながら読み取っていった。さらに、筆者が述べている内容は図版のどの部分に表れているのか、ワークシートの「最後の晩餐」の図版に直接線を引いたり、書き込みをしたりしながら、本文と図版とを結び付けて読んでいった【図12】。

そして、生徒が自分で調べた後、大型テレビに図版の画像を提示し、三つの技法を全員で確認した【図13】。



【図12】生徒が記述したワークシート

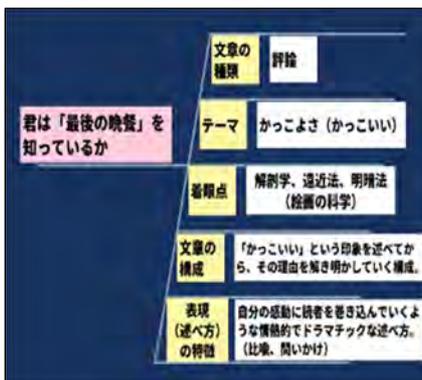


【図13】大型テレビで確認

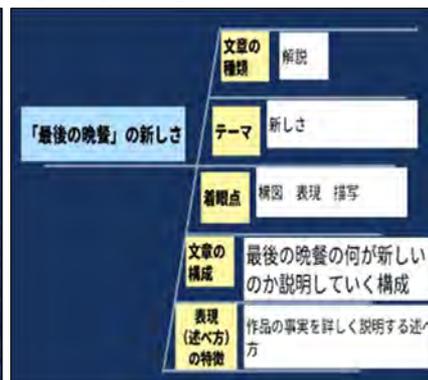
(2) シンキングツールを使用しての情報の整理

第3時では、ロイロノートの中にあるシンキングツール「くま手チャート」を使用し、①文章の種類、②テーマ、③着眼点、④文章の構成、⑤表現（述べ方）の特徴の五つの観点から、二つの文章を比較する学習を行った。

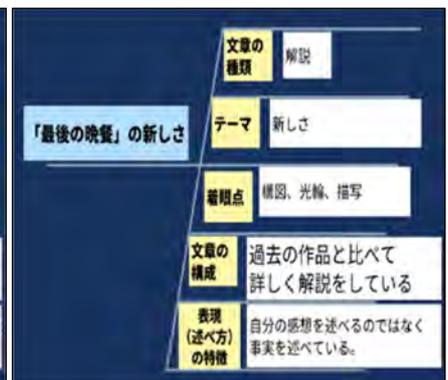
第3時は『最後の晩餐』の「新しさ」(解説)の学習が初めてになるため、第1時と第2時で学習済みの「君は『最後の晩餐』を知っているか」(評論)についてはあらかじめ教師が観点に沿ってまとめたモデルを提示し【図14】、シンキングツールを使って情報を整理する活動は、『最後の晩餐』の「新しさ」の方だけに絞って行った。生徒は、教師の提示したモデルを参考にしながら、『最後の晩餐』の「新しさ」の文章を観点に沿って整理することができた【図15】。



【図14】教師のモデル

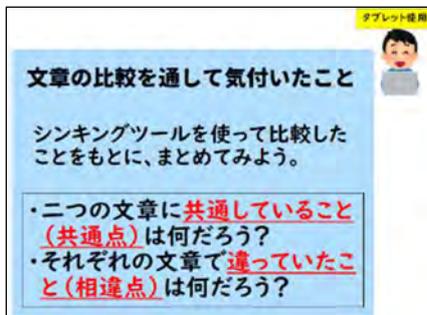


【図15】生徒が記述したシンキングツールの画面

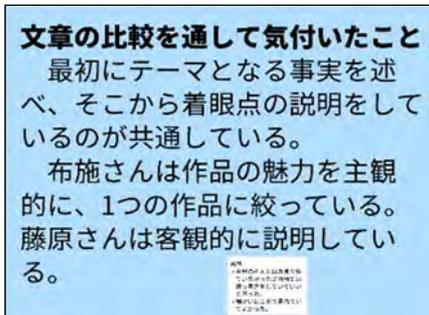


(3) カードを使用しての考えの整理

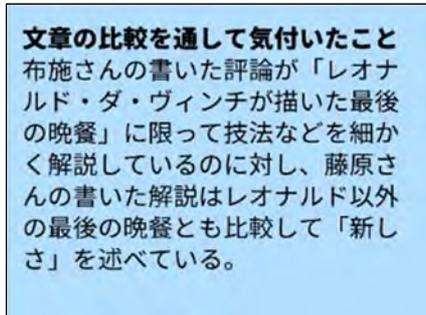
第3時では、シンキングツールを使って整理した2枚のカードを見て、気付いたことをロイロノートのカードに記述するようにした。文章の種類やテーマ、着眼点など二つの文章の違いは明らかだが、具体的にどのようなところに違いがあるのか、また、逆に、違う文章にも関わらず共通して述べられていることや二つの文章に共通している点はないだろうかと問うことで、二つの文章における共通点と相違点を考えさせるようにした【図16】。シンキングツールを使って整理された二つの文章を、さらに共通点、相違点という観点で比較したことで、二つの文章の特徴がより明確になった。生徒はそれぞれが捉えたことを自分の言葉でカードにまとめることができた【図17】。



【図16】観点を提示

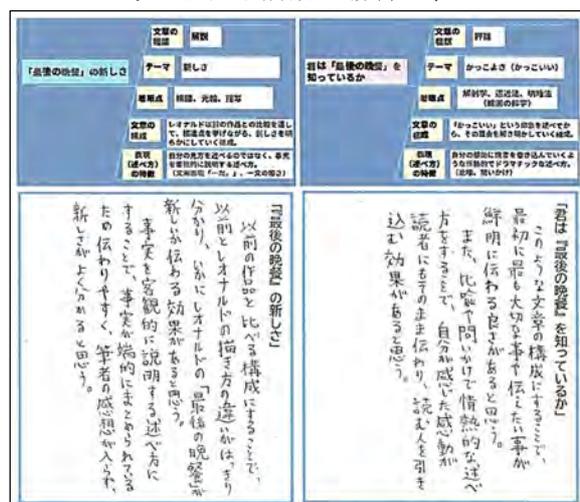


【図17】生徒が記述したカード

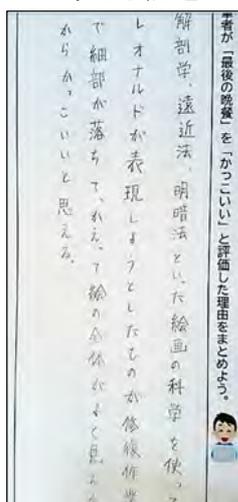


(4) ワークシートとカメラ機能の併用

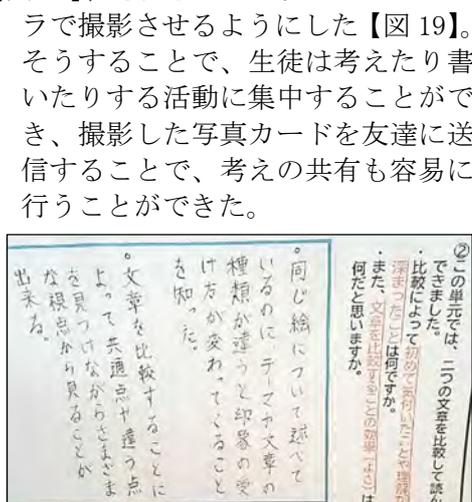
二つの文章の表現を比べたり文章を比較する効果を考えたりするなど、生徒にじっくりと思考させたい場合や、記述する文章量が多く、タブレットPCを使っての記述が難しい場合など、手書きで書いた方がよいと考えられる活動の場合は、ワークシートに考えを記述し【図18】、それをタブレットPCのカメラで撮影させるようにした【図19】。



【図18】表現の効果をまとめたワークシート

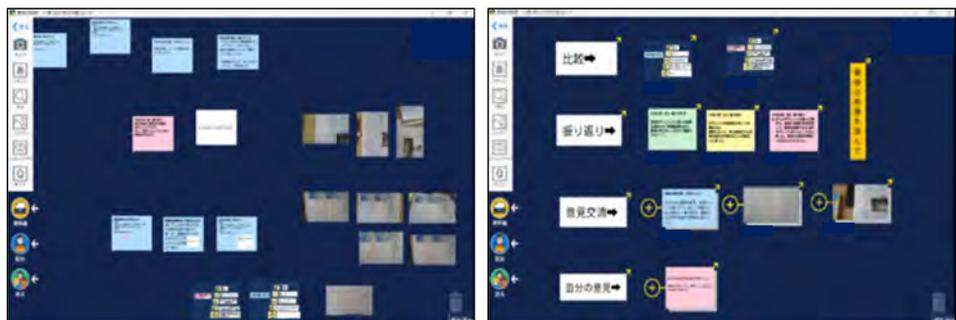


【図19】生徒が撮影したワークシートの画像



(5) 学習の蓄積

本単元では、カードを使って考えをまとめたり、シンキングツールを使って情報を整理したり、カメラ機能を使って考えを共有したりするなど、毎時間ロイロノートを使用して学習を行った。1時間ごとに新しいノートを作成するのではなく、前の時間のノートの続きに新しいカードを取り込むことで、単元として行ってきた学習を一つのノートとして蓄積することができた。生徒の中には、カードを広げて単元の学習を俯瞰して見られるようにしたり、カードをまとめて学習活動ごとに分類したりと、工夫してロイロノートの画面をまとめる姿も見られた【図20】。



【図20】生徒のロイロノートの画面

【C 協働学習】 C1 発表や話し合い

(1) 提出箱の活用① (教師が発表させたい生徒を指名)

ロイロノートでは、生徒が提出箱に提出したカード全てを教師は一覧にして見ることができ、また教師が見ている画面を生徒と共有することもできる。生徒は第1時に、「最後の晚餐」を自分だったらどう評価するのかをカードにまとめて提出箱に提出した【図21】。第2時では、筆者が「かっこいい」と評価した理由を文章の中から見つけてワークシートにまとめ、それをカメラで撮影して提出箱に提出した【図22】。教師は提出された生徒のカードや写真カードを基に、発表させたい生徒を決めることが可能になり、意図的に指名することができた。



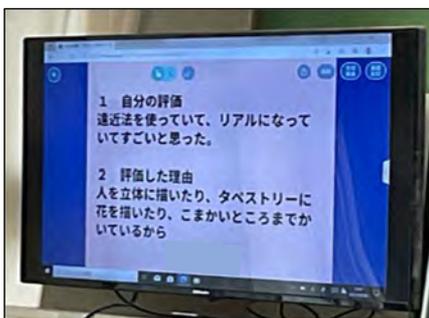
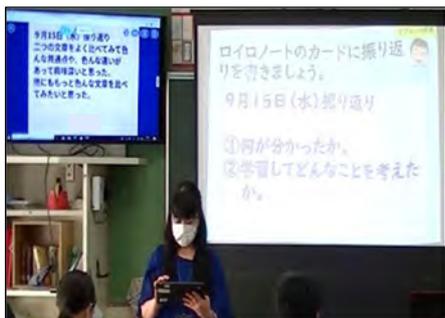
【図21】提出された生徒のカード



【図22】提出された生徒の写真カード

(2) 提出箱の活用② (生徒が友達の考えを把握)

提出箱に提出されたカードを教師が大型テレビに映したり【図23】・【図24】、回答を共有したりすることによって【図25】、生徒は学級全員のカードを読むことができるようになった。提出箱を活用することにより、発表した友達の考えはもちろんだが、発表していない友達の考えについても、生徒はタブレットPC上から把握することができた。



【図23】教師が生徒のカードを提示 【図24】大型テレビに映したカード 【図25】カードを確認する生徒

【C 協働学習】 C2 協働での意見整理

(1) グループ内での共有

本単元では、4人グループを作り、グループ内で意見交流を行った。ワークシートの記述をカメラで撮影した写真カードや【図26】、自分の考えを記述したカードを、グループの友達を選択して送信した【図27】・【図28】。

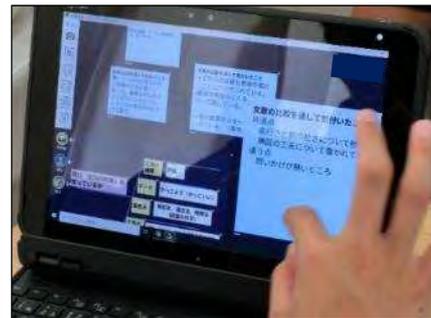
今までは、ノートやワークシートをグループ内で回しながら読んだり、一人ずつ順番に発表したりしながら行っていた考えの共有が、タブレットPCを使ってカードを送信することで、瞬時に行うことが可能になった。



【図26】ワークシートを撮影



【図27】送信する友達を選択



【図28】友達からのカードを確認

(2) 友達の考えに対する意見や感想

第4時では、文章の構成や表現の特徴などを考えながら、筆者がそのような書き方をする事でどのような効果(よさ)があるのかを考える学習を行った。以前は、ワークシートを交換して友達の考えを読み、付箋等に自分の意見や感想を書いて貼り付けるなどしながら行っていた意見交流を、本時では送られてきた友達の写真カードに直接自分の意見や感想を書き、もう一度友達に戻す、というやり方で行った【図29】・

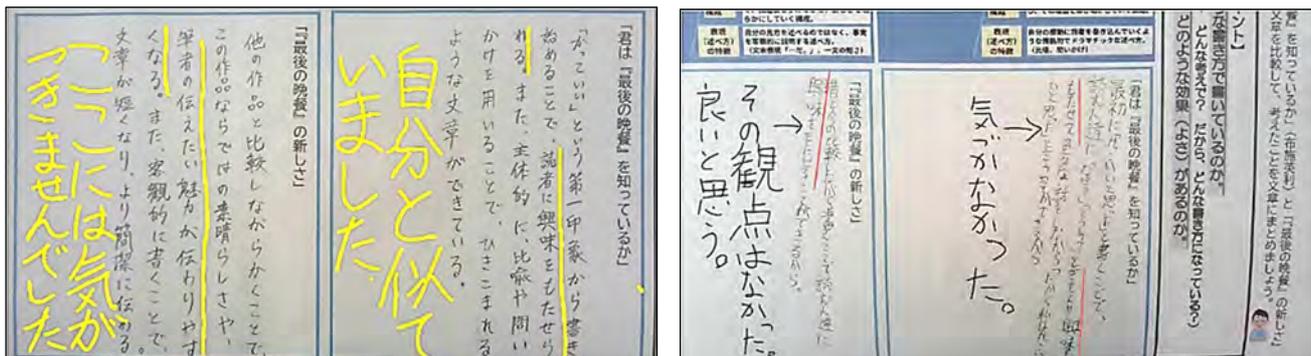


【図29】ペンで記入



【図30】カードを見合う生徒

【図30】。参考になったところや自分では気が付かなかったところなどにサイドラインを引いたり、友達の考えに対して意見や感想を書いたりすることで【図31】、新たな考え方に触れ、学びを深めることができた。



【図31】友達の写真カードへの意見や感想の記述

5 ICTを活用したことによる学習の成果と指導上の留意点

【ICTを活用したことによる学習の成果】

1 一斉学習について

(1) 複数の図版の提示と教科書本文の拡大提示

本単元では、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」の他に、過去に描かれた「最後の晚餐」やレオナルドよりも後に描かれた「最後の晚餐」など、複数の図版を提示した。大型テレビやスクリーンに投影することで、複数の図版を瞬時に提示することができた。生徒は、他の図版と比べることで様々な描き方を経ていることや、レオナルドの「最後の晚餐」のすばらしさに改めて気付くことができた。

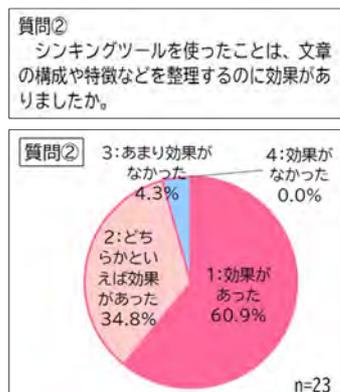
また、図版と本文とを結び付けて読む際に、本文のどの言葉や文章を手掛かりに読めばよいのか分かるようにするために、本文の拡大提示を行った。何となくではなく、本文のどの記述からそう考えたのか、筆者は本文でどう述べているのかを、文章から離れずに確認しながら読むことができた。授業後のアンケートでは、「実際に絵で確かめることができた」「どの部分かを見ながら読むことで理解が深まった」などの回答が見られた。

2 個別学習について

(1) シンキングツールを使用しての情報の整理

本単元では、ロイロノートの中にあるシンキングツール(くま手チャート)を用いて、評論と解説という二つの文章に書かれている情報を整理した。観点に沿って整理することで、二つの文章の違いがより明確になり、ぼんやりと感じていた文章の特徴をよりはっきりとつかむことができた。また、一つの表に情報を整理するのではなく、シンキングツールを使って文章ごとに1枚ずつカードにまとめることで、2枚のカードを比べながら文章の特徴をつかむことができ、表にまとめるよりも効果があったのではないかと考える。

授業後のアンケート結果では、シンキングツールを使ったことに関する肯定的な回答は95.7%であった【図32】。「項目に着目することで、共通点や相違点をすぐに見つけることができた」「文章の構成や特徴などを見つけやすくなった」など、比較のしやすさや整理のしやすさについての回答が多く見られた。



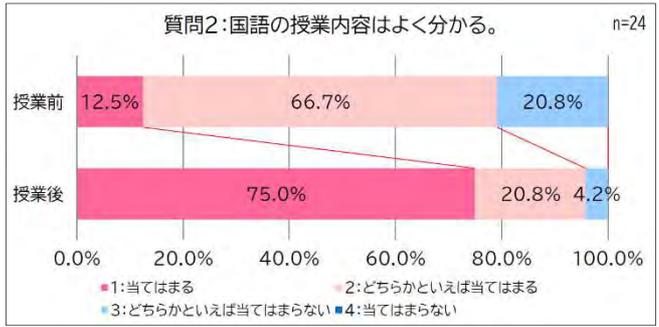
【図32】質問②の結果

(2) 二つの文章を比較して読むことの効果

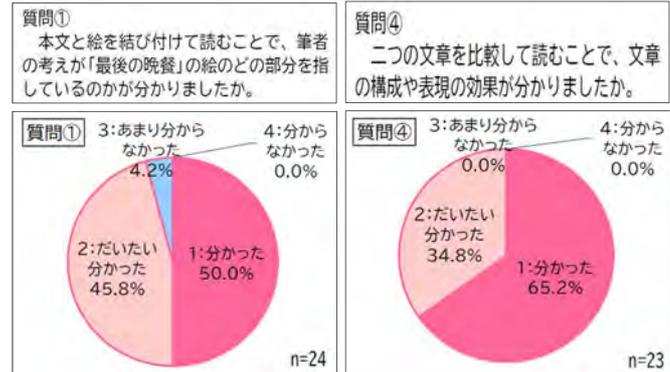
授業前と授業後に選択式で回答するアンケートを行った。授業前と授業後の回答を比較した際、12の質問項目のうち、最も回答に変化が見られた項目が質問2の「国語の授業内容はよく分かる」であった。授業前に「1：当てはまる」と回答した生徒の割合は12.5%だったのに対し、授業後の割合は75.0%に上昇した【図33】。

本単元では、本文と図版とを結び付けて読むこと、シンキングツールを活用して文章に書かれている情報を整理すること、二つの文章を比較して読むことを手立てとして授業を行った。授業後の質問①や④のアンケート結果を見ると【図34】・【図35】、肯定的な回答が9割を超え、行った手立てに効果が見られたことが分かった。

質問④で1や2を選択した生徒が、比較して読んでよかったこととして、「両者の表現の特徴がよく分かった」「相違点や共通点が明確になった」「表現の仕方がらりと印象が変化することを実感した」「2倍分かった」などを挙げている。二つの文章を比較して読むことを通して、一つの文章だけでは気が付かなかった文章の構成や表現の効果に気付くことができたと考えられる。



【図33】 授業前と授業後の質問2の結果



【図34】 質問①の結果

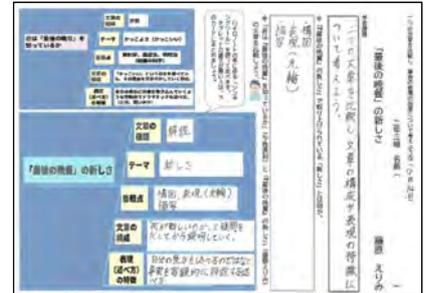
【図35】 質問④の結果

【指導上の留意点】

1 学習活動を保障するためのワークシートの準備

本単元では、二つの文章を比較して読み、発見したことや考えたことを文章にまとめるという言語活動を位置付け、実践を行った。

第3時では、文章の特徴を捉えるためにロイロノートのシンキングツールを使用した。併せてワークシートも準備し、実際に使用するシンキングツールを載せたことで【図36】、万が一、通信トラブルが起きてしまった場合でも、生徒は本時の学習活動を止めずに確実に学習を行うことができた。タブレットPCが使えない場合でも、生徒の学習を保障する手立てを講じておく必要がある。



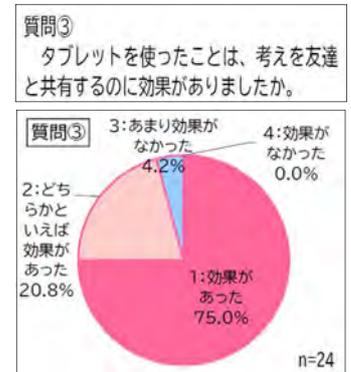
【図36】 ワークシートへの記述

2 考えを共有した後の意見交流の場の設定

本単元では、タブレットPCを使って意見の交流を行った。

授業後の質問③のアンケート結果を見ると、タブレットを使ったことは、考えを友達と共有するのに「効果があった」「どちらかといえば効果があった」と肯定的に回答した生徒は、併せて95.8%であった【図37】。タブレットPCを使ってよかったこととして、「直接話さなくても考えを共有できた」「会話をせずに考えを送り合うことができた」など、直接友達と話さなくても考えを知ることができたという内容の回答も中には見られた。

今回の授業実践では、自分の考えを記述したカードを送った後に、十分な話し合いの時間を確保できなかったことが課題であった。タブレットPCを使って考えを共有した後、それを基にしながら直接友達と話し合い、意見を交流する活動も大事にしていきたい。



【図37】 質問③の結果

3 タブレットPCを使用する活動の見極め

事後アンケートの自由記述の中で、「送信したり文字を打ったりする行為があることで、授業に集中できずに焦ってしまった」「タブレットで書くことに時間がかかってしまい、間に合わないことが多かった」「パソコンで文字を打つのに苦労した」など、操作の大変さに関する記述が多く見られた。タブレットPCを使うことで意欲的に記述する姿が見られる一方、他方では大変さを感じている生徒がいることも分かった。タブレットPCを使用した方がよい場合と、手書きで書いた方がよい場合を見極め、活動のバランスを考えていく必要がある。